

女性を、地域を
もっと元気に!

全国「リビング新聞」編集長の 私たちの読者はこれで動く!

全国57エリアに広がる「リビング新聞」には、地域に密着し、女性を元気にしたいと、日夜さまざまな企画を生み出している編集長がいます。情報を発信するだけでなく、読者を動かし読者をつなぐ…2016年に実施し、ヒットした各地の事例を一挙にご紹介。

Sendai

仙台リビング新聞社
リビング仙台

渡邊 綾
編集長



**日帰りバスツアーに850人超が参加
近場でもヒットにつながった理由**

旅行事業部が企画・実施するツアーの中でも、仙台市近郊に2015年夏に新設された水族館と松島グルメを楽しむ日帰りバスツアーは、約1年で850人超が参加! 毎月実施する人気企画です。当初は「近場の水族館にツアーで行く?」との懸念もありましたが、子どもや孫がいなくても、また「足、の心配をせず話題のスポットに行ける点」が主に50代以降の読者のハートをキャッチ。年齢を問わず新しいものには敏感なミセスの好奇心と、遠出=ツアーではないということに改めて気付かされました。

Fukushima

福島リビング新聞社
リビング福島 郡山

島 愛子
編集長



**読者だけが食べられる
「リビボンランチ」に4574人**

「リビボンランチ」は、ミセスに人気の飲食店のランチがお得になる企画。各店が読者限定ランチを作ったり、通常1500円以上するランチメニューが1000円程度で食べられたりときさまざまなサービスを用意しています。一昨年に第1回を行った際は参加店数9店で、来店した読者はのべ300人弱でしたが、5回目を迎えた昨年7月の来店者数はのべ4574人に。開催期間中は参加店に長蛇の列ができました。その動員力に、他店からの問い合わせも相次いでいます。

Tochigi

栃木リビング新聞社
リビングとちぎ

三井美紀
編集長



**次世代へと確かに繋がる環境イベント
“足尾緑化体験”は次のステージへ!**

足尾銅山の製錬事業による煙害で荒廃した日光市足尾地区の山々。年に1度、地元企業(10社前後)の協賛を得、地元のNPO法人の協力の下、親子連れや大学生など読者の皆さんと共にコナラなどの苗木約200本を植える環境イベント「足尾緑化体験」を行っています。年々、幼稚園児や小学生のお子さん・お孫さん連れの参加も増え、「次世代へと確かに繋がっている」と実感! 2006年からスタートした活動も10年という区切りを経て、更なるステージへと進みます。

Kashiwa

サンケイリビング新聞社
リビングかしわ

飯塚香織
編集長



**「ママもきれいになりたい!」を応援
宿題村でネイルブースに予約殺到**

今年で5回目を迎えた「1日宿題村」。暑い夏、涼しいホテルで宿題を終え、親子ランチを楽しむ企画。今回は、話題のプログラミングなど新講座5種類を用意。初の7月開催でしたが、親子248人が参加してくれました。せっかくだったら、毎日家事・育児に忙しいママにもご褒美を…と思い、ワンコインの「ネイル&ハンドマッサージ」コーナーを考案。すると、開場と同時に列ができ、あっという間に受け付けが終了。読者のココロにグッと近づいた! と感じる瞬間でした。

Tokyo

サンケイリビング新聞社
リビング東京副都心
東京西 東京南 東京東 東京リビング

和田直子
編集長



**おとな時間@北斎の街すみだ
のべ3000人の大人たちが参加**

7月11日(月)、シニア層を対象に、交通アクセス抜群・シニアにも馴染みのある「第一ホテル両国」をメイン会場として、2016年11月開催のすみだ北斎美術館とその周辺を回遊する「北斎謎解きスタンプラリー」「歴史講談とちゃんこを楽しむツアー」「水上バスで行く隅田川橋めぐり」など、参加者に「北斎の街すみだ」とことん楽しんでもらうための地域イベントの集合体を開催。のべ3000人が参加する熱気あふれる催しとなり、多くの人にすみだと新しい北斎美術館を強く印象付けました。

Musashino

サンケイリビング新聞社
リビングむさしの

石川香里
編集長



**たかがトマト?が、されどトマト!
編集記事と連動した企画で集客アップ**

1面の特集記事と連動した広告企画の集客は抜群。6月の1面にトマトのリコピン効能特集が決まると、2面でトマト農家での「収穫ピザ作りイベント」を企画。キャンセル待ちが27人となる大盛況イベントとなりました。続いて3面では、地元の飲食店を集めた「トマト料理を食べて当よう! トマトフェア」を開催。グルメはインターネットでのPRが強いといわれる中、6週間でパスタ店には約80人、更にスープ麺店には400人以上の読者が来店。編集記事との連動が他媒体と一線を画する広告に。

Saitama

サンケイリビング新聞社
リビングさいたま

佐藤順子
編集長



**読者発の情報をもとにコンテンツ提案
だからこそ多くの読者を動かす流通催事**

2016年5月にそごう大宮店で実施した「ちょこたび埼玉博覧会」は、リビング(読者・営業・編集)の情報をもとにコンテンツを提案。そごう食品部・販売促進部との営業同行、埼玉県観光課との連動等、県・流通・リビングが一緒に一から作り上げた大型催事で、リビング読者を多数集客しました。さらに11月には紙面で特集した読者おすすめサンドイッチ店を中心に大宮マルイで「パン祭り」を実施。読者の情報から生まれた流通催事だからこそ、多くの読者を動かしています。

Funabashi Narashino

サンケイリビング新聞社
リビングふなばし・ならしの

高橋節子
副編集長



**広報紙ではなかなか届かない情報を
ワクワク感のある切り口で発信!**

「市の魅力を既存の広報活動では届かない層へ発信したい」と、船橋市が紙面で連載している「ふなばし再発見」シリーズ。これまで8回掲載し、農産物、プラネタリウム、海産物、学校給食、産品ブランド、市場、児童ホーム、朝市などを、リビング新聞ならではのワクワク感のある切り口で取り上げてきました。特に、親子の遊び場である「児童ホーム」では、子育て世代にずばりヒット。「こんなに充実している施設とは知らなかった!」と反響も大きく、しっかり読者を動かししました。

Chiba

サンケイリビング新聞社
リビング千葉

大石登子
編集長



**「こんな企画を待っていた!」
読者の笑顔を妄想しつつ、企画中**

「サンドバックは夫の顔よ!」、輝く笑顔でちょっぴりコワイ言葉を残し、見事なハイキックを決めた読者は、主婦のストレスを明るく発散してほしくて始めた「はじめてのキックボクシング講座」で。夏休みの子ども対象の「お坊さん修行体験」では、父母と別れ、終日、読経や写経、境内清掃をやり遂げた子どもたちの誇らしげな顔、出迎えた保護者のうれしそうなお顔を会えました。「こんな企画を待っていた!」、ココロに刺さると読者は動く。読者の笑顔で我々は報われます!

Tama

サンケイリビング新聞社
リビング多摩

石河久美
編集長



**“社会貢献したい”気持ちに形を
読者70人のゴスペルチャリティ**

東日本大震災から5年の昨年、リビング多摩では、読者70人で結成した「ゴスペルクワイア」によるチャリティコンサートを行いました。参加者のほとんどはゴスペル初心者でしたが、半年間の練習で講師も驚くほどのレベルに。その原動力になったのは、大好きな「歌」で社会貢献できるという喜び。「こんな素敵な企画をしてくれたリビング新聞に感謝」という言葉もいただきました。なお、コンサートの収益約135万円は「東日本大震災ふくしまこども寄附金」にお届けしました。

Yokohama

サンケイリビング新聞社
リビング横浜東 横浜南

今野直子
編集長



**お任せあれ! 家族3世代を駆り出し
拡げる地域チームの認知と応援**

2016年秋、国内男子バスケットボールの36チームがB.LEAGUEにまとまりました。直前の夏休み、観戦者数や認知アップに苦戦する地元チームに提案した読者と選手の「出会い」を掲げたイベント「プロに習う親子バスケ」。有料ながら定員の3倍超の応募! 子供のスポーツイベントは父を駆り出し、撮影に母、応援団に祖父母。アンケートでは選手や家族との楽しい体験がそのままだと、興味薄だった地元プロのクラブ会員や観戦への意向が80%アップの形で表れました。地元愛醸成もお任せ!

DenenToshi

サンケイリビング新聞社
リビング田園都市

町田洋子
編集長



**大人だって夏休み!
おいしく伝統文化に触れるイベント**

子どもの夏休みイベントはすでに充実しているエリアなので、リビングではこの夏「大人にも夏休みを」と、あえて大人向けカルチャーイベント「利き酒と蔵元オリジナルランチを楽しむ会」を企画。地元では体験できない酒造りの伝統文化に触れられるとあって、エリア外での実施にもかかわらず、定員を上回る50人ほどの応募が。夫婦での参加もあり、女性が動くも男性も付いてくる、と分かりました。参加者からは次回を望む声が多く、神奈川県蔵元めぐり第2弾を計画中です。

Machida Sagami

サンケイリビング新聞社
リビングまちだ・さがみ

増渕直子

編集長



**「リビングと言えば読者」
読者が活躍＝地元貢献！**

今、リビングに求められているのはリアルな声！地元流通の30代・働く女性、町田市の移住促進・子育てママ、子育て冊子制作のためのママ編集部員など、読者モニターや座談会参加者集めの依頼が立て続けにあり、先方の希望に合った読者を紹介。クオリティの高い読者の声に感心しきり。「リビングと言えば読者」という媒体の魅力をアピールできました。その結果、町田市からは見開きの広告をゲット！ 地元の企業や行政と読者を繋げる、地元密着のフリーペーパーここにあり！

Nagoya

名古屋リビング新聞社
リビング名古屋中央 名古屋東山の手
名古屋みなみ 名古屋ノースイースト

竹尾朝子

編集長



**食は食でもキモは“おしゃれ心”
若いママを中心に行動力を引き出せ！**

ショッピングセンターやハウジングセンターを会場に、東海地方で人気を集めるおしゃれパン屋さんを集めた「パンマルシェ」が好評です。直近では10月の土日に開催し、1日約1000人を超える集客が、イベント開始前からファミリーやママ友たちが列をなし、1日中來訪者が絶えることがありません。また、紙面では“おしゃピク（おしゃれピクニックの略）”をテーマに特集したところ、若いママを中心に話題に。食は食でも、行動力を引き出すキモは“おしゃれ心”をくすぐることも！

Osaka/Hyogo

サンケイリビング新聞社
リビング大阪・兵庫

川楠洋子

クリエイティブセンター部長



**おばさん体形・ロカボ食・低糖質
すぐ行動に移せるアプローチに注目**

「20歳時の体重から10%超えると肥満傾向」「脂肪が1kg増えるとウエストが1cm太くなる」。こんなキャッチーな見出しが躍る特集記事の読者支持は断トツです。「糖質制限・ロカボ食」特集の低糖質食品のWEBプレゼントには1521件もの応募が。その際、「糖質制限セミナーへの参加」を確認すると、半数以上が「参加したい」と回答しました。「美と健康、に関心が高い読者の囲い込みには、紙面、WEB、セミナーなど多くのタッチポイントで、具体的な行動に移せる情報に加工することが大切と再認識しました。

Shonan

湘南リビング新聞社
リビング湘南
リビング平塚・大磯・二宮

増田誠子

編集長



**かき氷が一日1000食の新記録！
百貨店とのコラボ催事に長蛇の列**

地元百貨店と湘南にフォーカスした夏の催事「湘南ライフスタイルフェア」をコラボで企画。地元メディアとしてオススメ店を紹介してほしいとの要望に180の候補をリストアップ。その中から、夏は店頭で3～4時間待ちが当たり前のかき氷の専門店「苺庵」の店出が決定。お客さまを炎天下で待たせたくないという店主の思いと、駅近の百貨店で味わえる魅力が合わり、1日1000食の新記録を達成！ 60席のイートインスペースにもかかわらず、階段まで列ができ、館内をにぎわせました。

Shiga

滋賀リビング新聞社
リビング滋賀

山本和子

副編集長



**もっと地元企業のコトを知りたい！
「地元企業クイズ」に応募多数**

滋賀リビング新聞社では、8月27日号のフロント特集で地元企業の情報を3択のクイズ形式で紹介しました。夏休みの終わりに家族みんなで楽しんでからおうち企画し、インターネットで調べても見つけられないような質問をセンサー様にご提供いただき、クイズの答えは2面に掲載。紹介企業の3社から読者プレゼント提供をいただき、多数の応募がありました。ハガキには、「地元に住んでいるが知らなかった」「懐かしかった」「第2弾もしてほしい」などのコメントが寄せられました。

Wakayama

和歌山リビング新聞社
リビング和歌山

野田知世

副編集長



**“美”に関心の高いキラキラ女子
ホテル会場に約1000人が詰め掛ける**

和歌山の女性が、もっとステキに輝き続けられようように。そんな願いを込め、和歌山マリーナシティホテルと弊社がタッグを組んで行っている「キラキラ女子の和歌山美活フェス」。第3弾を昨年9月22日(祝)に開催しました。アクセサリー作りやフェイスシャルヨガ、ホテルシェフによる料理教室など全22の体験プログラムや化粧品メーカーなどの企業協賛ブースに加え、今回は恋愛映画のミニシアターを企画。来場者は約1000人以上、過去最大の集客で、会場は「キラキラ女子」で埋め尽くされました。

Shizuoka

静岡リビング新聞社
リビング静岡

松永恵理

編集長



**「リビング静岡」創刊35年
感謝を込めたプレゼント企画を実施**

2016年3月、リビング静岡は創刊35周年を迎えました。ご愛読いただいている読者に感謝の気持ちを込めた「読者プレゼント」企画を実施。メールで簡単にできる時代にもかかわらず、応募受付はハガキ・ファクスのみ。そのような中でも、ものすごい数のご応募をいただきました。なかには私たちへのメッセージを添えてくれる人も。心温まる優しい言葉に感動し、読者とつながっていることを実感！ 読者に響く情報を届けていくことを、改めて思いました。

Kyoto

京都リビング新聞社
リビング京都

内山土子

編集長



**手作り品販売会「ママフェスタ」が
仲間作りのきっかけにも**

11月、ハンドメイド好きなママ読者の作品販売会&発表会「ママフェスタ」を開催しました。23ブースにクラフトやジャムなどが並び、5時間で約400人の読者が来場。盛況のうちに終わることができました。ポイントは出展者の“やる気”。家事や育児をしながら制作をした作品を知ってほしいと、自らSNSで告知をする人も。出展者・来場者ともに物作りが好きな人が集まったことで交流の輪も広がっていた様子でした。仲間作りのきっかけになったことも喜びです。

Himeji/Kakogawa

播磨リビング新聞社
リビング姫路 加古川

桑田稜子

編集長



**播磨にはまだまだ素晴らしいものが！
地元の魅力が詰まった手土産を発掘**

帰省する際に役立ててもらおうと、お盆前の盛夏号で「播磨の手土産を買いに」の特集を組みました。留意したのは、あまり知られていない品物を紹介すること、商品だけの羅列にしないということ。地域情報紙のリサーチ力を生かして地産品を発掘し、各品のファン代表として読者や食べ歩きブロガー、地元FM局パーソナリティに登場していただきました。すると「いつもとは違ったものを贈ることができた」という約500件の喜びの声が。いつかは播磨リビング発案の手土産を作りたいですね。

Okayama/Kurashiki

岡山リビング新聞社
リビングおかやま・くらしき

新山 錬

執行役員編集長



**家族で楽習、社会科工場見学会
競争率25倍強のパン工場イベント**

昨夏、平成28年度地域活性化事業として弊社が主催した第1回リビング「家族で楽習、社会科工場見学会in山崎製パン(株)岡山工場」。約6300店舗にパンを届ける大規模工場で、製造工程を見学、パン作りを体験、昼食は焼きたてパン、お土産も…とパン尽くし。定員20家族でしたが、応募総数503家族(1410人)と25倍強の競争率。締め切り後も「次回はいつ?」「第2回はどこ?」と電話が止みませんでした。数年前から、話には聞いていたパンブームの威力を実感したイベントになりました。

Takamatsu

高松リビング新聞社
リビングたかまつ

谷本小百合

副編集長



**キレイ+非日常=求心力
重要文化財でのヨガに女性が集結**

女性は雰囲気重視するもの。今やブームを超えて定着した感のあるヨガも、情緒あふれる国の重文指定建物で行うとなれば、約90人の申し込みが。すがすがしい秋の1日、史跡高松城跡の庭が美しい公園で、大勢がリフレッシュしました。地元人気店による飲食マルシェや各種占いなどの体験コーナーも出店、レッスンの前後には音楽ライブを開催。ヨガ参加者のみならず、観光客にも楽しんでもらえるイベントに。女性には、キレイ+「特別感のある場所選び」も大切なことを実感しました。

Fukuoka

西日本リビング新聞社
リビング福岡

前田和美

編集長



**ピンクリボンにちなんだメニューで
検診受診をさりげなくPR**

10月のピンクリボン月間に、読者の注目を集める形で啓発したいと、以前取材したパン・和洋菓子店・カフェ25店舗にオリジナルのメニューや商品を作ってもらい、店頭で啓発POPや行政のチラシを置いてもらうコラボ特集を実施。9月24日号の掲載で10月からの販売だったため、発売前に買いに来る読者が多数。急遽前倒して販売してもらったり、1カ月に730個売れ、定番メニューになったり、店主やスタッフの啓発にもなるなど、お店からも感謝されました。

Fukuyama

福山リビング新聞社
リビングふくやま

綿谷千恵子

編集長



**歴史、美術、花を訪ねるツアー
年間のべ800人の読者が参加**

城下町・福山は、歴史ファンが多く、約25年前から地元の歴史を訪ねて「歩く会」を年2回実施しています。案内をする地元歴史研究家の語り口も人気で、100名城、を巡る日帰りバスツアーもスタート。真田丸、安土城、津和野などを目的地に各回約100人が参加と大盛況。美術館や季節の花を巡るバスツアーも人気で、読者限定の展示解説、豪華ランチ、道の駅での買い物など独自のコース設定でリピーターも多数。バスツアーの集客は昨年1年間で約800人でした。

Matsuyama

えひめリビング新聞社
リビングまつやま

宮本 舞

デスク



**人が集う場で思い描く快活な老後ライフ
百貨店での終活フェアに約580人来場**

松山では年2回、老後の住まいや介護、相続、葬儀、健康などのセミナーや相談会を一齐に行う終活フェアを開催しています。2016年10月には百貨店を会場に実施しました。約20社が展覧し1日で約580人が来場。参加者自らや親世代の“コレカラ”を考える機会となりました。人気物展覧の開催期間中で、買い物で訪れて補聴器体験、インプラント相談や老後の住まいについて考える人も。楽しい気分に参加できる終活の場が今後も増えそうな予感です。

Kumamoto

熊本リビング新聞社
リビング熊本

松田恵美子

編集長



**フロント特集と連動した
阿蘇復興ツアーに1000人以上が参加**

熊本地震直後から、風評被害に見舞われ観光客の激減に悩んでいた「阿蘇」。この現状を何とかしたいとの思いから、7月～8月に阿蘇特集を5回掲載。地元グルメや温泉などの名所、そこまでのアクセス状況も細かく紹介。さらに旅行会社TKUヒューマン(関連会社)とタイアップし、九州ふっこう割を使った「復興応援日帰りバスツアー」を企画。全26日程とも即満員となり、合計1000人以上がツアーを利用。「訪れてもらうことで元気が勇気がもたらえた」と阿蘇の方々から嬉しい声をいただきました。

Hiroshima

広島リビング新聞社
リビングひろしま

高山由美子

副編集長



**キッズや子育てママ、シニアまで
幅広い世代が参加できるイベント**

昨夏、大学と協働で、小学生と保護者が参加できるイベント「こども未来はっけん大学」を初開催。定員80組160人のところ376組871人の応募があり大変好評でした。9月には「起業女子応援ナビ@中国地域ネットワーク運営事務局」との共催で「キラリ女子フェス」を開催。SHUFU-1ミセスが展覧し、起業に興味がある女性が来場。また、熊本応援チャリティーイベントも実施し、約10万円を寄付。このように幅広い世代が参加できるのが「リビングらしさ、だと思えます。

Kitakyushu

西日本リビング新聞社
リビング北九州

植田詩生

編集長



**支援したい…その想いが一つに！
熊本地震チャリティーパンマルシェ**

熊本地震被災地支援のために、読者と一緒に行うことはないと考え、読者の人気が高い「パンマルシェ」をチャリティーイベントとして開催することに。急遽決定したにもかかわらず、2日間で計16店が参加。「大好きなパンを買うことが支援につながるの嬉しい」と主婦を中心に約1600人が来場し、パンが完売する店舗が続出しました。「熊本には行けないけれど何か支援したい」というみんなの想いが一つになった結果、来場者・参加店から約12万円の支援金が寄せられました。

Kagoshima

南日本リビング新聞社
リビングかごしま

内村由美子

編集長



**「女性のための起業カフェ」を初開催
「知恵と勇気をもたらした」と大好評！**

「起業を目指す女性の背中を後押ししたい」と初開催した「女性のための起業カフェ」。20人の定員に対し、応募者は約100人。反響の高さに自分らしい働き方を模索し、起業に憧れる読者が多いことを実感しました。しかも当日、女性起業家4人が4つのテーブルを回りながら、参加者とカフェトークを繰り広げるスタイルにしたところ、大好評。「知りたいことを気軽に聞けた」「起業家のリアルな体験談に一步踏み出す勇気をもたらした」など、会場中に笑顔が溢れたのも印象的でした。